インド、英貿易協定初の試金石でスコッチのコンテナ80本超を留め置き

税関調査当局はバルク輸入品を濃縮物と分類し、協定の75％ではなく150％の関税を適用すべきだとしている

2026年11月11日（水）



ロイターが11月11日水曜日、事情に詳しい4人と政府の機密メモを引用して報じたところによると、インド税関当局は、ペルノ・リカールとディアジオが輸入したバルクのスコッチ数十コンテナを留め置いている。調査当局は、両社がインド・英国貿易協定に基づき適用されると見込んでいた75％の関税ではなく、150％の関税を求めている。

この対立は、7月に発効した貿易協定にとって初の大きな試金石となっている。争点は、英国から輸入され、インド国内でウイスキーブランドの製造に使われるバルクのスコッチ濃縮物を、インドがどのように分類すべきかだ。輸入業者は、協定に基づく低率の75％関税が適用されるべきだと主張する。一方、財務省傘下のインド歳入情報局の調査官は、完成品の瓶詰めスコッチではないため

対象外であり、150％の関税を課すべきだとしている。

ロイターによると、対立が続くなか、ペルノ・リカールのコンテナ40本超とディアジオのコンテナ40本超がインドの港で足止めされている。通信社が取材した情報筋の1人によれば、バカルディのコンテナ5本も留め置かれている。対立が解決しない限り、各社はより高い関税の支払いに応じないとみられ、国内製造に使われる蒸留酒の供給が滞るリスクが高まっている。

税関調査当局の見解は、ロイターが確認したという11月4日水曜日付の機密メモに示されていた。メモはインド各地の税関委員に対し、調査当局が誤った税関分類だとみなす分類で輸入されるバルクのスコッチに、150％の関税を引き続き適用するよう指示していた。また、輸入業者が「複合アルコール調製品」として扱うべき製品について、貿易協定の恩恵を「不適切に」申告していると記していた。この品目には5月1日以降、より高い関税が適用されている。

メモによると、調査対象の製品は完成品のウイスキー、ブランデー、ラムではなく、輸入後にさらに製造工程を経る濃縮物または複合調製品だ。調査官は、分類の誤りがあれば、政府歳入に広範かつ継続的な影響を及ぼしかねないと述べた。

財務省の調査部門が強硬な姿勢を示したのは、酒類各社がインド政府の別の部門から安心材料を得たと受け止めてから、わずか数日後だった。ロイターによると、業界の働きかけを受け、商工省は11月2日月曜日、幹部らに対し、インドは貿易協定を順守し、対立の迅速な解決に取り組むと伝えた。この発言を受け、ペルノ・リカールやディアジオなどは、低率の75％関税が適用されると見込んでいた。

両省から相反するメッセージが発せられたことで、協定が実際にどのように運用されるのかをめぐる不透明感が強まったようだ。財務省の高官はロイターに対し、財務省と商工省が適切な解決策について協議していると語った。インドの財務省、商工省、歳入情報局は、ロイターのコメント要請に応じなかった。ペルノ・リカールとディアジオもコメント要請に応じなかった。

インドは、現地でのブレンドや瓶詰めを通じて販売されるスコッチ関連製品の世界有数の市場であり、今回の輸送品は重要な意味を持つ。ロイターによると、英国からインドに輸入されるスコッチウイスキーの約80％は、数量ベースでバルクの状態で到着する。これらの輸入品は、インド国内市場向けに少量のスコッチを他の蒸留酒や原料と混ぜる「インド製外国酒」の製造に使われる。

貿易全体への影響も大きい。ロイターの報道によると、2024年のインド向けスコッチ輸出額は3億3,500万ドルだった。スコッチ・ウイスキー協会は、貿易協定により5年間で輸出額が13億4,000万ドル増える可能性があるとしており、関税の扱いは英国の輸出業者やインドで事業を展開する多国籍酒類企業にとって重要な問題となっている。

この対立は酒類業界全体にも懸念を広げている。ロイターによると、インド国際スピリッツ・ワイン協会は、インドと英国の間で交渉された重要な市場アクセス上の恩恵が損なわれる恐れがあると、インド政府に非公開で警告した。協会の懸念は、関税優遇が書面上は存在していても、税関当局と貿易担当当局が規則を異なる形で運用すれば、企業が遅延やコスト増に直面しかねないことを反映している。

今回の対立は、関税や税をめぐってインドと多国籍企業の間で摩擦が続く、より広い状況のなかで起きている。ロイターは、サムスンやフォルクスワーゲンが関係する事例など、インドでは税関や

税務上の請求をめぐり、外国企業の投資家が他にも注目度の高い紛争に直面してきたと指摘した。今回の件では、ここ数週間にペルノ・リカールやディアジオを含む複数社の事務所が税務当局の捜索を受け、幹部も調査の一環として事情聴取された。

対立が公になった後、投資家は否定的な反応を示した。ディアジオのインド子会社ユナイテッド・スピリッツの株価は、11月11日水曜日に1.5%下落して取引を終えた。ペルノ・リカールの株価はフランスで1.1%下落し、ディアジオ株もロンドンの早朝取引で1.3%下げた。最終的な税関上の扱いがまだ決まっていないものの、港での遅延が長引き、関税が75%から150%へ倍増する可能性が、サプライチェーンや利益率を損なうとの懸念が株価の動きに表れた。